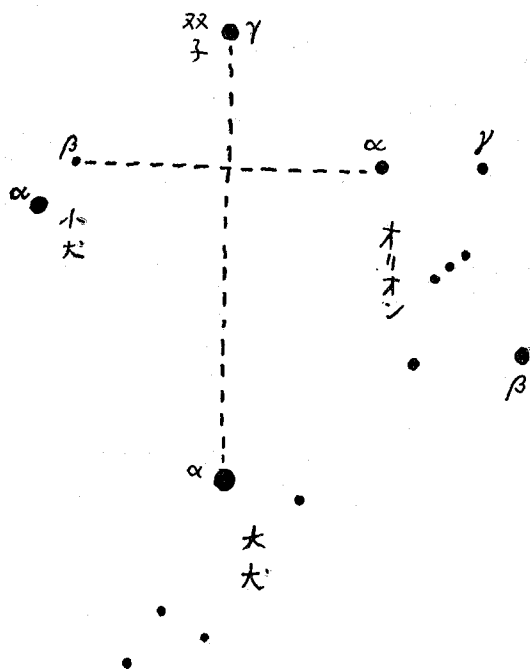




秋澤昭二郎氏(高知)の十字形(昭和18年4月9日)

のである。カシオペア座の W 形を作つてゐる五つの星が、一端から他端へ少しく光度が小さくなつてゐるのなども、同様に面白いと思ふ。之に対して、オリオン座の“三つ星”の光度が、皆殆んど同じであるのは、甚だ平面的な感じを與へてゐる。

話は少しく外れるが、秋澤氏の十字形のあたりには、三つの一等星、即ちプロシオン、ベテルギウス、シリウスの3星が殆んど正確に正三角形を作つてゐる。これは外國人にも古くから知られてゐる有名な星象である。

又、アルデバラン、ベテルギウス、リール、シリウス、カノプスの五つの一等星は、極めて巨大な W 形を作つてゐる。何れも初めての人には、特に興味深いものである。更に、夏の空には、アルタイルと、エーガと、デネブの三星と、北極星とは、菱形を作つてゐて、これは北斗の見えない頃、北極を捜す方便にもなる。しかし、これ等のいろいろの形は、光度から言へば、申し分は無いものだけれど、形が皆餘りに大きく擴がり過ぎてゐるため、之れを一望の下に眼底に眺めて見ることが不便であるのが、缺點である。やはり、前に繰り返し述べた如く全體の形が小さいといふことが必要である。(1943-4-20)

天界正誤表

		誤	正
		Photometry	Photometry
第262號	第133頁, 14行目	吉田昭三	吉野昭三
	第143頁, 黒點表, 觀測者名	純率な	純粹な
第263號	第148頁, 18行目	“天果”	“天界”
	第167頁, 5行目	Jau.	Jan.
	第170頁, 時刻ノ欄, 5行目	Abril	April
	“ ”, “ ”, 13行目		
	第171頁, 第1822號輻射點, 備考	Monocerotid	Monocerotid

★太陽課 SUN

近いうちに、太陽観測者のみの、特別な協議會を田上で開きたいと考へてゐる。黄道光や流星、變星などの観測者の會合は以前に幾回も開いたことがあるけれど、太陽観測者の會合は未だ一回も開いたことが無かつた。しかし、近頃は、本課員中にも、観測の技術や方法などについて、もつと相互の連絡を必要とする件が、多くあるやうに思はれるし、相對數の計算についても、誤解を無く、無駄を省き、いろんな意見の交換、器械の取り扱ひ方、伊達氏等による寫眞撮影法の研究等の問題もあるし、各自の観測者が毎日の天氣模様と闘つてゐられる體驗の發表なども必ず益する所が多いと思ふ。——観測者たちは、東にも西にも、可なり離れてゐる人があるけれど、何とかして會合して、相互に親しく語り合ふ價值は大きいと思ふ。恰も、今は太陽が黒點活動の極小期を過ぎて近く第31期の大活動を開始せんとしてゐる時期である。之れに對處するため、観測者は充分に準備しなければならない。日蝕が起ると、戦時下の、可なり旅行難の時であつても遠方まで観測に出かける人が多い。しかし日蝕だけが天文ではない。太陽のみに注意力を集中しても、日常の観測が可能である黒點や白紋の諸現象中には、日蝕よりも重要視しなければならない問題が少くないのである。課員は、徒らに新奇を追はず、着實に宇宙の現象を研究して貰ひたい。

(四月分) この月は天氣が悪くて、観測者は可なり苦んでゐられるが、東京では、比較的に好天氣に恵まれたやうである。黒點は一體に小さいが、それでも肉眼に見える程度のものが時々現はれて、観測者を喜ばせてゐる。

“缺測” M といふものを成るべく少なくして貰ひたい。言ふまでもないことであるが、“缺測”とは、天氣には申しぶんが無い場合で、観測者の都合さへ好ければ可能であつたのだが、要務とか何とかで、都合が付きかねたといふことを意味する。ところが、多くの観測者の報告中には、缺測の意味が明瞭でないのがあり、甚だしいのは、天氣が悪いのか、観測者の都合が悪いのか、明らかでないのがある。只、木邊氏だけは、缺測の意味を明瞭に報告して居られるので、敬服する。要するに、観測者の良心の問題である。學術の研究と、人間の道徳とは全く無關係であるかの如く考へてゐる人々が(特に自由主義の人々の中に)多いやうであるが、それは以つての外のことである。道義心の健固な人でなければ信用ある研究や観測は行はれない。天體観測はすべて監督者の眼前で行はれるものでないのだから常に良心の強い人のみが眞に信用ある報告をするのである。こんなことは書物に書いてない常識である。(1943-5-10, 山本)

注意：太陽課諸報告は、當分の間、田上天文臺(滋賀縣栗太郡上田上村)氣附にて送られたし。

訂正：天界第262號第143頁、観測者名の中、吉田昭三とあるは吉野昭三の誤。